

公的医療機関等 2025 プラン（2023 年度版）

○基本情報

- ・ 医療機関名：埼玉医科大学総合医療センター
- ・ 開設主体：学校法人 埼玉医科大学
- ・ 所在地：埼玉県川越市鴨田 1981 番地
- ・ 許可病床数 1,053 床
 - （病床種別） 一般病床 1,053 床
 - （病床機能別） 高度急性期 1,053 床
- ・ 稼働病床数
 - （病床種別） 一般病床 1,025 床（令和 6 年 2 月 1 日現在）
 - （病床機能別） 高度急性期 1,025 床（令和 6 年 2 月 1 日現在）
- ・ 診療科目（標榜科）27 診療科

内科、精神科、小児科、外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、耳鼻咽喉科、眼科、麻酔科、放射線科、リハビリテーション科、歯科、歯科口腔外科、呼吸器外科、美容外科、脳神経内科、リウマチ科、心臓内科、呼吸器内科、消化器内科、病理診断科、救急科
- ・ 職員数：2,416 名（令和 6 年 2 月 1 日現在 常勤のみ）
 - （医師） 533 名
 - （看護職員） 1,232 名
 - （専門職） 497 名
 - （事務職員） 154 名

1. 現状と課題

①当該病院（自施設）の現状

- ・ 地域内での役割・機能

理念

- ・ 安全で質の高い医療を提供し、地域から信頼される医療機関を目指します。

基本方針

- ・ 医療を受ける皆様との相互協力により、満足度の高い医療を提供します。

- ・地域の医療施設と連携し、急性期医療機関として高度医療を推進します。
- ・総合周産期母子医療センターと高度救命救急センターを中心に、地域の救急医療の充実に努めます。
- ・医学の発展と、心豊かで高い技能を持つ医療人の育成に努めます。
- ・災害拠点病院として、災害に対応できる医療体制を整備します。

診療実績（令和4年度の主な実績）

- ・1日平均外来患者数：2,024.5人
- ・1日平均入院患者数：814.7人
- ・平均在院日数：13.9日
- ・病床稼働率：84.0%
- ・紹介率：77.7%
- ・逆紹介率：64.9%
- ・手術件数：8,469件

特徴

- ・高度救命救急センター（指定）、総合周産期母子医療センター（指定）、小児救命救急センター（指定）を有する施設として、24時間体制で医療を提供できる体制を整えており、地域の救急医療の充実に努めている。また、災害拠点病院としての役割を担えるよう体制を整えている。
- ・地域がん診療連携拠点病院（指定）、がんゲノム医療連携病院（指定）として、高度ながん医療を提供できる体制をとっている。
- ・脳血管に対するカテーテル治療を行う脳血管センターを開設し、24時間体制で対応可能である。
- ・国や県の医療政策に適合しつつ、Super General Hospitalとして地域住民のみならず、県内住民へ高水準の医療提供に寄与できる体制としている。

他機関との連携

昭和60年の開院当初より、川越市医師会との間で地域医療の充実・発展のための相互協力に向け、地域からの要請の受入れや図書館の開放、共同研究の参加などの協定書の取り交わしを行った。川越市の協力のもと、川越市医師会との病診連携推進事業に取り組み、平成6年度から国の病診連携推進モデル事業として選定されている。地域医療支援病院としてさらなる病病連携・病診連携の強化に努めていく。

②当該病院（自施設）の課題

- ・患者のスムーズな転医・転院体制の構築
- ・紹介率・逆紹介率の向上・推進
- ・入退院支援の充実（地域との一連の連携）

- ・ 大学病院としての役割・分担等の確立（地域医療機関への教職員の派遣等）
- ・ 医師における働き方改革に即した対応
- ・ 地域医療機関への医師派遣維持
- ・ 構想区域以外からの流入の状況を踏まえた他の構想区域との調整
- ・ 在宅医療等の医療提供の推進、支援体制の構築

2. 医療機能ごとの病床数

時点	病床数	医療機能別					区分別	
		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休床	一般	療養
2023年 7月1日 時点	1,025	1,025					1,025	
2025年 7月1日 時点	1,025	1,025					1,025	

※令和5年度病床機能報告の数値を入力

3. 今後の方針

- ①地域医療構想を踏まえた当該病院（自施設）の地域において今後担うべき機能・役割
- ア) 大学病院として地域における高度医療・急性期医療の提供
 - イ) 地域医療の基幹病院として医療提供
 - ウ) 医育機関として実地臨床医・専門医の教育と育成
 - エ) 看護師等の医療従事者の教育と育成
 - オ) 災害拠点病院としての地域災害医療の提供
 - カ) 地域がん診療連携拠点病院として医療提供
 - キ) 総合周産期母子医療センターとして医療提供
 - ク) 高度救命救急センターとして医療提供
 - ケ) がんゲノム医療連携病院として医療提供
 - コ) 地域の病病連携、病診連携に係るネットワークのさらなる緊密化
 - サ) 国及び埼玉県の政策医療への貢献
- ・ 医師確保計画（地域医療構想、働き方改革、医師偏在対策）の三位一体の実現に向けた取り組みの推進
 - ・ 地域医療機関との役割分担の推進強化
 - ・ 高額医療機器の共同利用推進
 - ・ 既存の地域医療支援病院との役割分担として、当院で実績のある救急医療、小児医

療、周産期医療を中心とした医療支援、医療連携等を分担し主に高度医療を担当する。また当区域のがん診療の拠点として医療提供を行っていく。

②①を踏まえた今後の方針

(病床機能や診療科の見直し、他病院との連携の方針、その他見直しの予定等)

- ・ 大学病院としての高度急性期病床機能
- ・ 地域の病床の整備状況、ニーズにより緩和ケア病床等などの整備を検討する。
- ・ 医師、看護師を含む職員の働き方改革
- ・ 地域の診療所等による勤務医支援の在り方
- ・ 在宅医療支援体制の構築・推進（在宅医療提供医師。看護師等の支援等）
- ・ 医療施設、介護施設、福祉施設の多重連携体制の構築

③その他の数値目標について

- ・ ①②に関連する当該病院（自施設）で設定している数値目標を記載

○医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率：95%
- ・ 手術件数：800件/月
- ・ 紹介率：80%
- ・ 逆紹介率：70%

○経営に関する項目

- ・ 人件費率：35%
- ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合：1%

4. 新興感染症への取組

自由記載

- ・ 当院は感染指定医療機関ではないが、国及び埼玉県からの要請に応え、方針や政策を踏まえ適切に対処する。

5. その他

自由記載